



不動院寺報

不動院と 檀家と

第12号 令和7年7月
発行人 住職 片岡卓治
編集人 総代長 鈴木裕士

住職挨拶



不動院にはかつて十三の末寺がありました。明治期までに悉く廃寺となりました。その一つに常福院があり、阿弥陀如来を御本尊としていました。阿弥陀如来は極楽浄土の教主で三回忌を司る仏様です。限りなき寿命と光明を持ち、亡くなった方を七宝莊嚴の美しき国、極楽浄土へ導いてくださるといわれています。有名な所では鎌倉の大仏や平等院鳳凰堂の御本尊、牛久大仏も立像の阿弥陀如来です。

常福院は堂崎にあったとされていますが、詳細

は不明です。今年になって御本尊の阿弥陀如来が古山の稲野辺光恵様宅によって、代々敬拝されていたことが分かりました。常福院が廃寺になった際、稲野辺家が御本尊の守護を引き受けたのではないかと考えられます。仏像と共に不動院二十五世秀範、三十二世秀譽が墨書した棟札二枚が残っていました。

稲野辺様からご相談をいただき、今後は本寺である不動院でお預かりしていくこととなりました。像は傷みが激しく、欠損している部分も数か所あるため、現在千葉県袖ヶ浦市の仏師に修復と古色彩色をお願いしているところです。次号では修復後のお姿を皆様に御披露できると思います。

三學山

岩崎寺 不動院



不動院の境内に聖観音の像が建立されていることから、前号で観音様について説明いたし、どのような観音様がおられるか、そして観音様は男性か女性かを今号で説明する旨記載しました。観音様の種類につきましては、先般に檀家の方へ配られた「令和七年 豊山寶曆」に主な観音様とその説明が記載されています。下手な説明は誤解を招きますので豊山寶曆をご覧ください。

一方、男性か女性かについては種々説があります。観音様はお釈迦様の王子時代の姿を基にしているとのこと、基本的には男性ですが「男性でも女性でもない、悟った姿を表しており、人間を超えた存在である。したがって男性・女性という



▷馬頭観音・顔つきは男性

津の慈母観音や東京湾観音の優雅な観音様が頭の中にあり、他の観音様についての見識不足が影響した結果であります。ということ、すっきりしない結論となりましたが、宗教界を始め、長い歴史の中では不思議なことは少なからず伝えられています。

お釈迦様は、生まれた直後に7歩歩き、右手で天を、左手で地を指し「天上天下唯我独尊」と言われたということは有名なお話です。旧約聖書の中では、モーゼが杖を振り上げると海（紅海）が2つに割れ、モーゼの一行は割れた海を渡って難を逃れ、追ってきた軍隊は割れた海の中に沈んでしまったなどの話があり、不思議な話は枚挙にいとまがありません。

（モーゼ…紀元前十六世紀又は同十三世紀における、ユダヤ教やキリスト教など多くの宗教界での重要な預言者の一人と言われています。エジプトから奴隷扱いされていたヘブライ人イスラエル民族を連れ出す使命をうけて行動した中に、前記の海が割れる場面が記述されていて、1956年に、これらの状況を米国で映画化した、チャールトン・ヘストン主演の「十戒」は有名）

概念はあてはまらない」というのが通説です。観音様は女性であるという筆者が永らく思っていたことについて、会

この人にインタビュー



今回は押辺地区にお住いの長谷川茂子さんに登場いただきました。

長谷川さんはお孫さんや庭先の出来事それに同居する猫のことなど身近な事柄を題材に歌を作って茨城新聞に投稿。毎回のように掲載されており、ゆくゆくは歌集を出版したい意向もあるようです。

短歌を始めたのはいつごろからですか？

また始めたキツカケは？

約二十年前になります。母方の伯父さんに勧められ、教えてもらいました。

どのような状況のときに歌が浮かびますか？

気持ちが穏やかな時とか心に強い衝撃を受けた時が多いです。日記代わりに書き留めています。

師事した先生は？

独学です。

茨城新聞以外への投稿は？

茨城新聞のみです。

短歌を作っていて嬉しかったこと・良かったことは？

友達や知人から「新聞に載っていたね」「頑張ってるね」などの言葉を頂くと、とても励みになり、また嬉しいです。

◎これまで詠んだ歌で、自薦上位3首を紹介してください。

廊下まで 零れるような産声は
やがてわが家の大黒柱
庭先に 息子二人が立話
うしろ姿をたのしく見る
古い母を 残して逝った弟の
名を呼んでみる小さき声で

◎今年の3月2日付茨城新聞で第一席に選出された作品を紹介いたします。

猫のいる目だまり浅く掘り返し時いてみよつか早春の
菜を 笠間 長谷川茂子
【評】日だまりは冬の小さな天国、猫にとっても
そんなのだらう。さらにここに春菜の種子をまけば
元気に芽吹くだろうと猫が教えてくれているようだ。
春の明るいイメージが膨らんだ一首。

里山型樹木葬墓地のご案内

この度、不動院新墓地の一角に里山型樹木葬墓地を開設いたしました。樹木葬は基本的に、後継ぎを必要としない永代供養です。お墓を守ってくれる人がいなくても、当院が責任を持って永代にわたり供養や管理をします。一区画三・二㎡の墓所に遺骨を骨壺から出して直接地中に埋葬します。何体でも埋葬することが可能ですが、香炉などの人工物は設置することはできません。

多くの墓地では、墓守が居なくなると墓じまいをする必要がありますが、当院の樹木葬墓地では承継者がいなくても、埋葬された方はそのまま土に還っていくことができます。自然に還りたいと強く希望する方に合った埋葬方法といえます。詳細につきましては、不動院までお問合せください。

お知らせ

◎不動院寺報第四号に掲載されました文助さんの墓石を、墓地再編事業に伴い今年三月、大網区共同墓地の上段部に移設いたしました。

◎落成から三十年が経過し、汚れやび割れが目立つようになったため、本堂の引戸をリニューアルしました。傷みが激しい南側は木曾檜天然木の引戸に入れ替え、正面と北側の引戸は汚れを落とし、保護剤を塗布しました。



アジサイ献木者御芳名 (五月末日現在)

町田 光一様 真家 菊枝様
茂呂 裕様 高瀬 修一様
飯田 忠司様 飯田 新一様
鈴木 裕士様 平沢 久様

ご協力ありがとうございます。
引き続きよろしく願いいたします。

